

平成24年度事務事業評価シート（23年度実施事業分）

事業番号	08 04 02	中期総合計画主要施策番号	2-03	担当課	部・課	農政部園芸畜産課果樹花き係	
事業名	皆で取り組む園芸振興事業				内 線	3094	
					E-mail	enchiku@pref.nagano.lg.jp	
実施期間	H17 ~	根拠法令等	長野県食と農業農村振興計画、農畜産業振興事業補助金交付要綱				
実施方法	補助金、委託 相手方：長野県園芸作物生産振興協議会					国庫・ 県単	県単独事業

事業の概要等	目的（必要性）	園芸作物の栽培面積や生産量の減少により産地の競争力が低下しつつあるため、農業者団体等との協働により、競争力の高い園芸産地の育成を目指す。
	対象	園芸作物（果樹・花き・野菜）生産者
	目指すべき姿	生産・出荷・流通団体等と連携した中で、 ・収益性を高める県オリジナル品種の選定や栽培技術の開発実証を図る ・流通業者や実需者の需要動向に対する新品目・新品種の早期PRを図ることにより競争力の高い園芸産地の育成を目指す。
	事業内容	農業者団体と県等で構成する長野県園芸作物生産振興協議会（3部会）が行う果樹・花き・野菜の生産振興等に係る事業への補助と委託（うまいくだもの推進部会 美しい信州の花推進部会 野菜生産振興部会）による、県オリジナル品種生産拡大のための現地実証、優良品種選定等の試作・検討会、多収穫栽培技術等の実証及びプロジェクトによる重点的な取組等） <補助率：[県] 1 / 2 > 得られた成果等の普及については、「強い園芸産地育成事業」等活用し産地育成を進めている。

事業コスト	区分	単位	22年度	23年度	24年度（当初）	23年度事業費の主な内訳
	最終予算額（A）	千円	4,659	3,977	3,590	委託料 395千円 ・補助金3,582千円（うまいくだもの推進部会1,898千円、野菜生産振興部会、988千円、美しい信州の花推進部会696千円）
	決算額（B）	千円	4,659	3,977		
	B（H24はA）のうち一般財源	千円	4,659	3,977	3,590	
	概算人件費	人	0.30	0.30	0.30	
	概算事業費（B（H24はA）+ C）	千円	7,154	6,454	6,067	

事業実績	成果指標・活動指標内容	単位	22年度	23年度	24年度（見込）	左記以外のH23年度実績
	高品質果実生産のための研修会等の開催（活）	回	35	28	30	振興品目別に、ナガノパープル栽培マニュアル、欧州系ぶどう黄色品種（ぶどう）のカラーチャート、りんご3兄弟適期収穫推進ポスター（生産者向け）、アスパラガス収量性向上マニュアル、アスパラガス栽培事例集、花木類出荷カレンダー（市場向け）を作成した。
	アスパラガス収量性向上モデル園の設置（活）	箇所	25	21	21	
	実もの花木等の実証ほの設置（活）	箇所	2	2	2	
	<効率指標（単位当たりコスト等）> 高品質果実生産のための研修会等の開催	千円/回	204	230	202	（効率指標 算出式） 概算事業費 / 高品質果実生産のための研修会等の開催回数

事業の成果	事業の目標（H23）	事業成果・評価	評価区分
	・研修会の開催、現地実証ほの設置などにより、りんご中生種（3兄弟）の栽培面積1,255haを目標とする。 ・アスパラガス生産振興プロジェクトの活動により多収穫技術を実証する。 ・研修会の開催などにより、花木類の栽培面積を84haとする。	・りんご中生種（3兄弟）栽培面積は1,166ha、目標対比93%でほぼ期待通りの成果が得られた。 ・アスパラガスの収量性向上モデル園の収量要因分析ができ、生産振興大会等とおして情報提供できた。 ・花木類の栽培面積86ha、目標対比102%で期待通りの成果が得られた。	b 期待どおり

事業の課題	区 分	判 定 ・ 説 明				
	事業ニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	・オリジナル品種は県内に広くかつ早期に普及定着させる必要があるため、関係機関が課題を共有し課題解決に向け一体となって進める必要がある。 ・事業成果が得られ関係機関一体となって効率的に進めている。
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	事業改善(有効性・効率性)の余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		

総合分析等	総合分析（今後の課題、取組方針等）	試験場が開発した戦略的品目に係る新技術や新品種を現地・生産者も含め早期に普及定着させ、競争力の高い産地を育成するためには、農協系統・商系を含めた関係機関が一体となって課題解決を図っていくことが今後も重要である。
	特記事項	